

生徒らの輝く笑顔 — 日教組支援の実験室・教室の贈呈式 —

I T U C ミャンマー事務所・所長 なかじま 中嶋 しげる 滋

7月3日、ヤンゴン市郊外ケヤン村の二つの学校で施設贈呈式があった。日教組の支援によって、小・中・高が併設されている大規模校の理科実験室と小学校低学年が学ぶ小規模校の校舎がそれぞれ建設されたが、それらの完成をまって支援に感謝する式典が持たれたのだ。日教組からは岡本泰良書記長（E I - A P 〈教育インターナショナルアジア太平洋〉議長）、狩野卓国際部副部長が、地元からは生徒、教師、住民代表など多数が参加した。式典は、大規模校では授業が始まる前、小規模校では休憩時間を活用しての、それぞれ短い時間のものであったが、心温まるものであった。

ヤンゴン市の中心部から2時間半以上のマイクロバスでの移動の後（雨期で豊かに水が溜まった田園風景の中、悪路をがたがたと進んだ村へのアクセスは『小旅行』と呼ぶに相応しいものだった）、9時前に大規模校に到着した岡本書記長一行が目にしたのは、到着を待ち構えていた大勢の生徒、教師、住民たちであった。歓迎の横断幕が掲げられ、実験室は式典会場に仕立てられ飾りつけられていた。どの顔にも気持ちの高揚が現れていて笑みに包まれていた。

真新しい実験室の入り口に向けて30～40人の生徒代表が手作りの小さな花束をもち歓迎の列をつくる中、一行は迎えられた。用意されたハサミが岡本書記長に手渡され、正式に開館を告げるテープカットがなされた。実験室内での式典で岡本書記長から日教組組合員からの連帯・支援の気持ちを届ける意義が述べられた。その中で、教育環境整備がもたらす教育・教師への効果、そのことがもたらす生徒たちへの影響、それらが国の未来を

担う子どもの成長を育む基盤となること、そしてそれらを実現していくために必要な「共助」の重要性が訴えられた。校長、村長、学校支援住民組織代表（コンピューター、トイレ、図書そして実験室が適切に運営管理されていくようつくられた教師OBや農民組合代表などによる。タンスエAF FM委員長・CTUM副会長は中心メンバーの一人）、そして生徒代表から感謝の気持ちをこめた挨拶がなされた。高校2年の2人の女子生徒が、実験室がないこれまでの授業が如何に物足りないものであったかということ、これから顕微鏡などに実際に触れながら授業を受けられる喜びと期待の大きさを、こもごも語ったことは、岡本書記長に感銘を与えたようだ。

小規模校でも、歓迎の花束を持った生徒や教師、住民たちに迎えられた。真新しい校舎の内部は、天井が高く、窓も多く、壁の高い位置に強化ガラスの明かり取りがあって、これまでの校舎とは大きく異なる。これまでなかった職員室も設置された。校長、教育委員長、生徒代表がそれぞれお礼の言葉を述べたが、感動的だったのは4年生の女生徒のもので、緊張して震えんがばかりの表情で一生懸命話す様子は参加者全員に感銘を与えた。彼女は言った。「遠い日本の先生たちからの支援を受けて、こんなにいい教室で勉強できる自分たちは幸せです。心から感謝します。一生懸命勉強します」と。

I L O 役員と意見交換

岡本書記長は、贈呈式に先立って7月2日、ヤ

ンゴン到着直後にILOミャンマー連絡事務所を訪れ、結社の自由プロジェクト責任者のクリス・ランドカジアウスカス氏と会談した。ミャンマーにおける労働組合の組織化状況とりわけ教員を含む公務部門に関して意見交換がなされた。クリス・ランドカジアウスカス氏は、ミャンマー政府・教育省の権力が非常に強く、教員組合の組織化が厳しい状況下に置かれていることを指摘した。組合活動を理由にした不当配置転換や校長による厳しい管理の実例を挙げながら、それを如何に打破していくかの戦略確立の必要性が強調された。岡本書記長は、教員のみでなく広く公務部門の組織化に向けた取り組みが必要で、教員の組織化もその一環としてなされるべきで、PSI（国際公務労連）との協働が強く求められていることを述べ、日本でPSI-AP（国際公務労連 アジア太平洋）の議長組合である自治労と意見交換をしていることを紹介した。クリス・ランドカジアウスカス氏は、岡本書記長の意見に賛同し具体的な取り組みにつながることを期待していると述べるとともに、ILOとして提携可能なことは何でもしたいとの姿勢を明らかにした。氏は、自身がILO職員組合委員長の際にPSI加盟をした経験を紹介しながら、民主的な社会における公務部門労働組合活動の重要性を強調し、ミャンマーでのEIとPSIの協働の必要性を再度強調した。

CTUMとの面談

贈呈式終了後ヤンゴンに戻った岡本書記長は、CTUMを訪れマウンマウン会長、ロニー書記長、サンダー書記次長、ティーチャット教育担当オルグと面談した。その中で、CTUMによる教員組合の組織化活動が報告された。非常に厳しい状況下ではあるが、公立学校、僧院学校、民族教育施設で働き・活動している教員たちの労働組合を結成する活動を進めていて、これまでに10組合が誕生している。公立学校の組合は1組織だが、それを含め全ての組合が登録申請をし、内1組合がフォ

ーム6（管区レベルの登録で、これを経て全国レベルのフォーム7登録となり完了する）の登録がなされている。

岡本書記長は、極めて厳しい状況下で教員組合の結成に取り組み成果を上げつつあるCTUMに対し敬意を表するとともに、引き続き連帯活動を強めていくことを表明した。ここでも氏は、PSIと協働して公務部門全体の労働組合結成活動を強めることの必要性を訴え、CTUMと連携した活動促進を提起した。マウンマウン会長は、感謝とともに全面的な合意を明らかにした。

ブックレット「教育と教員の国際基準」の寄贈

ITUCミャンマー事務所は、日教組の支援を得てブックレットを発行した。ILO/UNESCO「教員の地位に関する勧告」（1966年）とUNESCO「高等教育教員の地位に関する勧告」（1997年）を如何に理解し活用するかを説明したものだ。ミャンマー語・英語の両国語版で見開きページ（左ページが英語、右ページがミャンマー語）で内容が相互確認・理解できるよう編集した。これを岡本書記長のミャンマー訪問を機に、CTUM、ILO、訪問した学校の教師たちに、寄贈・配布した。ILOも高く評価し活用するとして相当部数を求め、CTUMはこれまでに連絡を保ってきた教員などに配布し始めた。ここでも日教組の支援が効果を発揮している。



贈呈式典でテープカットをする日教組・岡本泰良書記長